那覇市立教育研究所 所報

令和7年度 10月号
所長 棚原 歩

次期学習指導要領に向けた基本的な考え方と今後の方向性

中央教育審議会教育課程企画特別部会は、令和七年九月に「論点整理」を公表し、次期学習指導要領の検討に向けた基本的方向を示しました。社会の急速な変化やデジタル化の進展、多様化する子供の実態を踏まえ、学校教育の在り方そのものが問われています。ここでは、第一章と第二章の要点を踏まえ、特に小・中学校に関係の深い視点をまとめます。

1 三つの方向性に基づく教育の再構築

今回の改訂論議を貫く柱は、次の三つの方向性です。

①「主体的・対話的で深い学び」の実装（Excellence）

現行指導要領が掲げる学びの姿を、より実際的に授業へ落とし込むことを目指します。思考力・判断力・表現力を発揮する中で、知識を概念として理解し、他の場面でも活用できる「生きて働く知識」を育むことが重視されます。そのために、学習指導要領の構造化・表形式化・デジタル化を進め、教師が授業を設計しやすい形に改めることが提起されています。

②多様性の包摂（Equity）

児童生徒の個性・特性・背景の多様化を前提とし、一人一人の意欲と可能性を引き出す教育を目指します。

具体的には、「裁量的な時間」を軸とした調整授業時数制度の創設、学年区分の柔軟化、不登校や特定の才能をもつ子への特別な教育課程など、教育課程そのものを包摂的に再構築する方向が示されています。これは、学びの公平性（equity）を拡大する取組でもあります。

③実現可能性の確保（Feasibility）

教師の過重負担を避け、持続可能な教育実践を支えるための条件整備も重要な柱です。デジタル学習基盤の充実や教材改善、勤務環境整備により、教師と子供双方に「余白」を生み出すことが求められています。

この三つを総合すれば、「多様な子供たちの『深い学び』を確かなものにする」ことが次期改訂の核心です。

2 自らの人生を舵取りする力の育成

社会の構造変化とAI時代の到来により、学びの動機付けや価値観も変化しています。今後は、自分の興味や得意を原動力に学び、当事者意識をもって多様な他者と協働する子供の育成が重視されます。

そのために、探究的な学び、情報活用能力の向上、特別活動における民主的な話し合いなど、学びのプロセス全体で「自ら考え、行動し、対話する」力を育てることが重要です。

3 質の高い、深い学びを実現するための学習指導要領の刷新

第二章では、教師にとって「分かりやすく、使いやすい学習指導要領」を目指す方策が示されています。

①中核的な概念による構造化

教科ごとの学びの柱を「中核的な概念」として整理し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」との関係を「タテ（深まり）」と「ヨコ（つながり）」の両面から可視化します。

これにより、教師が単元全体を見通し、「どのような資質・能力を育てたいか」から授業を構想できるようにします。

②表形式化とデジタル化

教科・学年を横断して俯瞰しやすいよう、表形式の構成を導入し、記述の冗長さを改善します。

また、デジタル版学習指導要領を整備し、教科書・教材・指導案との連携をAI等で支援することも検討されています。教師が疑問に応じてフィードバックを得たり、指導案のたたき台を生成したりできる仕組みを構築します。

③「学びに向かう力・人間性等」の再整理

現行では要素が多岐にわたり理解しにくいとされてきましたが、今後は以下の四要素として再整理されます。

- 初発の思考や行動を起こす力・好奇心
- 学びの主体的な調整（メタ認知）
- 他者との対話や協働
- 学びを方向付ける人間性（ウェルビーイング、共生意識など）

これらを往還させながら「自らの人生を舵取りする力」を育てる構成とします。

④「見方・考え方」の焦点化

各教科固有の学びの意義を明確にするため、「見方・考え方」は学びの本質的価値を示す役割に焦点化されます。一方、「深まり」は中核的な概念による構造化の中で具体的に示される予定です。

⑤デジタル学習基盤を前提とした学び

一人一台端末やクラウド環境を前提に、ICTを「教具」ではなく学びを支える基盤として位置付けます。

児童生徒が自ら学習を調整し、協働的に課題解決する学習環境を構築し、情報活用能力を全教科で基盤的に育成します。

～中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」～

11月　教育研究所事業

6日（木）中間検討会（研究員）
11日（火）拠点校指導教員等連絡協議会③
14日（金）ICT情報教育推進部会（公開授業）
20日（木）初任者研修⑫（特別活動・代表授業）
26日（水）中堅教諭等資質向上研修会⑨
〈その他〉中堅教諭研究授業（主事参加）

□令和７年度　第125期教育研究員

（後期）入所式10／2(木)

テーマ検討会10／9(木)・項立て検討会 10/21(火)

◇◆◇ お知らせ ◇◆◇

「令和７年度全国学力・学習状況調査結果に係る指導のポイント・ 授業アイディア例（那覇市）のオンデマンド活用について」（令和７年10月８日付インフォメーションにて周知）

令和７年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、本教育研究所では、各教科における指導のポイントや授業アイディア例をまとめたオンデマンド動画を作成しました。国語・算数（数学）・理科の主任等を中心に、校内研修や教科会での活用を目的としています。動画は、Google Classroom「R7全国学調結果を基にした授業改善那覇市」（クラスコード：vcnz2su5）から視聴できます。配信期間は令和７年10月10日（金）から12月26日（金）までです。視聴後はアンケート回答にもご協力ください。

全国学力・学習状況調査結果を共有し、市全体で授業改善を進めていくため、ぜひ積極的なご活用をお願いいたします。

◇◆◇新着図書（10月）のお知らせ◇◆◇

『復刻版　コア・カリキュラム』　梅根悟
『自己調整方略』　木村明憲
『イラスト図解でわかる　教科書活用』　丸岡慎弥
『「思考ツール×ＩＣＴ」で実現する探究的な学び』　泰山祐
『実践事例で学ぶ　生成ＡＩと創る未来の教育』　小原豊
『「発問」のデザイン』　宗實直樹
『授業・テストですぐ使える！　ＡＩ英語授業術』　滝沢広人
『生徒が英語を話す力を高める　オーラルアプローチを生かした授業づくり』　宮崎太樹
『筑波発の総合活動　ＳＴＥＭ＋授業のすべて』　筑波大学付属小学校

☆こちらのQRコードから研究所の新着案内を閲覧できます